

審判部

1 本年度の活動と反省

(1) 本年度の組織

部長・副部長	各地区責任者		連絡担当者	
部長 三浦 岳彦 (越谷・東中)	さいたま市	高橋 美幸 (さいたま・日進中)		
	東 部	山崎 光祐 (春日部・緑中)	埼玉葛 北埼玉	
	西 部	岡田 憲正 (ふじみ野・大井東中)	入間 比企	
	南 部	井上 裕馬 (志木・志木二中)	北足立北部 北足立南部 川口 草加	
主事 山田 和人 (春日部・東中)	北 部	柴崎 裕 (小鹿野・小鹿野中)	児玉 大里 秩父	

※南部以外は地区責任者が各地区の審判員に直接連絡しているのが現状。もしくは、SNS を用いて連絡している。

審判員数

東西南北	地区名	級別人数						総計
		H	A	AC	B	C	-	
さいたま		0	1	0	6	8	0	15
東 部	埼玉葛	0	1	1	8	1	0	11
	北埼玉	0	0	0	1	0	0	1
	計	0	1	1	9	1	0	12
西 部	入間	1	1	0	15	23	0	39
	比企	0	0	0	3	3	0	6
	計	1	1	0	18	26	0	45
南 部	北足立北部	0	0	0	0	1	0	1
	北足立南部	0	1	0	12	12	0	25
	計	0	1	0	12	13	0	26
北 部	児玉	0	0	0	0	1	0	1
	大里	0	0	0	2	7	0	9
	秩父	0	0	0	2	3	0	5
	計	0	0	0	4	11	0	15
総計		1	4	1	49	59	0	113

※令和元年9月1日付けで春日部市立東中の山田和人教諭が日本バレーボール協会審判規則委員会公認のA級審判員候補者となった。

※昨年度、県協会審判委員会実施の日本バレーボール協会公認審判員資格取得審査会が実施され(2年に1度)、B級審判員が新たに12名、C級審判員が新たに20名、認定されました。

活動報告（今後の予定も含む）

- ①県内中体連行事 関東中体連審判講習会（昨年度：4/28 神奈川県 今年度：未定）
各大会（県協会長杯、学総、新人戦）、
県中体連審判講習会（昨年度：5/12 北部 熊谷東中 今年度：5/10 さいたま市 日進中を予定）、各地区審判講習会（5/17）、
関東大会（8/5～7 茨城県）、審判技術向上研修会、
関東中体連審判交流研修会（天皇・皇后杯ブロックラウンド時）
JOC 壮行会、女子 U-13
- ②県外中体連行事 全国大会（昨年度：8/17～20 和歌山県 今年度：8/17～20 静岡県）
- ③県協会行事 県 6・9 人制審判講習会（今年度は中止）、国体県予選、6 人制総合選手権大会
ヤングクラブカップ県大会、天皇・皇后杯予選、V リーグ
関東ブロック地域リーグ、埼群対抗（2019 年度は群馬県）
- ④その他 関東大学リーグ、障がい者大会（ふれあいピック）、関東高専大会、
ビーチバレーJBV サテライト

(2) 昨年度の反省

①審判員の確保

	協会長杯			学校総合			新人戦			
	1 日目	2 日目	3 日目	1 日目	2 日目	3 日目	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
必要数	15	11	18	48	24	16	24	24		
活動数	6	6	19	※ ₂ 37	24	21	※ ₃ 21	※ ₄ 21		
過不足	-	-	1	-11	0	5	-3	-3		

※協会長杯初日は男女ともに帯同審判員制。必要数はコントローラーや会場責任者の数。活動数はチームにも帯同にも入らずに活動した審判員数

※₂これ以外にチーム引率をしながら審判をお願いした先生が 12 名いた。

※₃これ以外にチーム引率をしながら審判をお願いした先生が 5 名いた。

※₄これ以外にチーム引率をしながら審判をお願いした先生が 4 名いた。

- ・「継続して活動してくれる＝審判員の確保」であると考え、確保している審判員数はまだまだ少ないのが現状である。
- ・連絡方式～SNS（LINE 等）を利用して県中体連審判員や地区ごとなどのグループを作ることで連絡はしやすくなった。また、今後は SNS による連絡が浸透してきているので、より良い活用方法を模索していく必要がある。
- ・地区大会を行う範囲において、審判員が一人もいない地区もあることが現状である。

②審判技術

- ・ルール取り扱い～年々少しずつ変わるものに適応していく。そのために毎年審判講習会を実施して、最新のルール取り扱いを学ぶ必要があるとともに、チーム（顧問、選手）にも伝えていく必要がある。
- ・ハンドリング基準～特にセッターや二段トスの際の“キャッチ”や“ダブルコンタクト”についての判定基準の幅を狭めていくことは常に課題である。

③生徒役員～2021 年度に行われる関東全中に向けての生徒役員育成をスタートしていきます。審判部全体として役員育成を図っていきたくと思っています。

つきましては、7 月上旬と 10 月中旬か下旬、そして 3 月下旬の 3 回ほど、全中に向けたコートオフィシャル（ラインジャッジ、点示、アシスタントスコアラー、クイックモッパー、ボールリトリバー）の講習会を行いたい。中でも 3 月の講習会は日本中体連バレーボール競技部審判規則委員長の田中昭彦先生をはじめ、規則委員の先生方をお招きして実施する予定である。

- ④講習会～「関東中体連」：関東大会派遣審判員（今年度は茨城県で開催→延期 日程未定）
「県中体連」：県内中体連審判員のための講習会（今年度はさいたま市立日進中で教員のみ）
「各地区」：「県中体連」で講習を受けてきた審判員が講師となり、各地区の顧問の先生を対象にルールや取扱、審判法を講習した。
「スキルアップ講習会」：JOC 男子チームの県立行田進修館高校での合宿に合わせて行っている実技研修会。
「関東中体連交流研修会」：関東各都県から中体連の審判員が集まり、JOC 女子の合宿に合わせて実施している実技研修会。（今年度は群馬県で実施）

⑤組織運営

- ・連絡体制～年度当初の文書による希望調査と大会等の近づいたときに確認を取るための SNS（LINE 等）を用いての確認の二段構えを中心としていく。
- ・大会ごとの審判員の確保～休日開催であれば集まりやすいが、平日開催になってしまうと不足は明らかである。確保のためにも春先に1年間の委任状を配布するなどの対策をとっていく必要がある。

2 今年度の課題

①審判部員の確保と各大会での審判員の確保～ *当日キャンセルに対する不安

各地区の県大会出場枠数に応じて審判部員を出していただきたい。不足した地区の出場監督には、相当数の審判をお願いすることになる。（1日2～3試合）

②B級・C級審判員を育てる *B級審判員の審判レベルの向上

今年度、各級審判員の審査会があります。埼玉全中を見据えて、中学生の試合のみならず、さまざまなカテゴリーの試合に吹きに行ってください、経験を積むとともにスキルアップを目指していきたいと思っています。また、審判に興味がある先生方には積極的に声掛けをしていくことで、今後も審判員の裾野を広げていきたい。

③組織の更なる充実 部長→副部長→各地区担当者→地区連絡員の構築

ここ数年の組織構築もあり、部長～地区責任者まではしっかりしたものができました。しかし、さらに末端の各市町村や東西南北の各地区のより細かい地区ごとの集約はまだ大変なところがあります。なので、地区責任者の下に小地区ごとに地区連絡員を置き、大会出欠などの集約をより正確に、スピーディーに行えるようにしていきたいと考えています。

④審判講習会（予定）→県中体連からの通知により中止

- ・審判部員向け 5/10（さいたま市）
- ・各地区講習会 5/17 →案内が行き届くようにする。そのために広報部と連携を図り、県中体連バレーボール専門部の Web ページも積極的に活用していく。

※今後、日本中体連や関東中体連から降りてくる情報を各審判員に伝達していく。

⑤審判技術向上のために *継続的に活動してくれる審判員を確保

- ・審判に行こうという雰囲気作りと支援体制～1コート6人体制で運営し、スキルアップを図る
- ・講習会や研修会に参加したくなるためには